

第 6 次南箕輪村総合計画策定に伴う村民アンケート調査報告書

令和 6 年 9 月
南箕輪村
南箕輪村むらづくり委員会

目 次

1 調査概要	6
1-1 調査の概要.....	6
(1) 調査目的	6
(2) 調査対象者.....	6
(3) 調査内容.....	6
(4) 設計及び回答結果.....	7
1-2 本調査報告書の基本的な事項	7
(1) 数値の基本的な取り扱い	7
1-3 本調査の統計的な評価	8
(1) 図表の数値の統計的な見方.....	8
(2) アンケートの有意性.....	8
1-4 回答者の属性	9
(1) 性別	9
(2) 年齢	10
(3) 職業	11
(4) 就学先・勤務先.....	12
(5) 居住年数.....	13
(6) 居住地区	14
(7) 転入前の居住地	16
(8) 世帯構成.....	16
2 調査結果.....	18
2-1 むらへの愛着度・満足度、定住意識、むらの魅力について	18
(1) 愛着度・満足度	18
(2) 定住意識.....	24
(3) 南箕輪村の魅力	30
2-2 むらの現在の状況と今後のむらづくりにおける優先度について.....	36
(1) 満足度.....	36
(2) 重要度	42

(3) 優先度	48
2-3 むらの将来像(あるべき姿)について	51
(1) むらの将来像	51
2-4 地域活動の参加について	58
(1) 地域活動の参加について	58
2-5 むらの住みやすさと地域の活性化に向けた取組みについて	63
(1) 少子化対策	63
(2) 高齢福祉対策	69
(3) 産業振興	75
(4) 観光・交流振興	81
(5) 地域社会のデジタル化	87
2-6 転入者の傾向について	93
(1) 住宅の所有	93
(2) 転入理由	95
(3) 区・組について	96
(4) 転入する際の情報収集など	100
2-7 高校生世代の傾向について	104
(1) 村の住みやすさ	104
(2) 帰郷意識	105
2-8 地域幸福度指数調査(ウェルビーイング調査)について	106
(1) 個人因子調査	106
(2) 協調因子調査	108
(3) 地域幸福度相関指数	114
2-9 自由記載について	115
(1) 自由記載内容分析	115
3 資料	121
(1) 「19 歳以上の村民」へのアンケート調査項目	121
(2) 「10 年以内に村内へ転入された村民」へのアンケート調査項目	133
(3) 「高校生世代」へのアンケート調査項目	145
(4) 「小学 4～6 年生及び中学生」へのアンケート調査項目	153

1 調査概要

1 調査概要

1-1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、令和7(2025)年度の「南箕輪村第5次総合計画」期間終了を控え、「南箕輪村第6次総合計画」(令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までを計画期間とする)の策定に向けて、村民を対象に、今後のむらづくりを進めるにあたり、住みよいむらづくりへの基礎資料を得ることや村政に対する村民の声を総合計画に反映するために実施しました。

(2) 調査対象者

本調査に係る調査対象者は、令和5年12月1日現在の住民基本台帳から以下の4つの区分に分けて抽出しました。

番号	区分	区分略称	抽出条件
①	19歳以上の村民	19歳以上	令和6年4月1日現在で19歳以上となる村民(②を除く)
②	10年以内に村内へ転入された村民	転入者	令和6年4月1日現在で19歳以上となる村民のうち、令和5年12月1日現在で他の市区町村から南箕輪村へ転入されて10年以内となる村民
③	高校生世代	高校生世代	平成17年(2005年)4月2日から平成20年(2008年)4月1日の間に誕生した村民
④	小学4～6年生及び中学生	小中学生	村内の小中学校に通う児童・生徒の内、令和6年度小学4年～6年生、中学1年～3年生の村民

(3) 調査内容(括弧内は調査区分を示す)

- ① 村への愛着度(①19歳以上、③高校生世代、④小中学生)
- ② 村への暮らしの満足度(②転入者)
- ③ 村への定住意志(全区分)
- ④ 村の魅力(①19歳以上、③高校生世代、④小中学生)
- ⑤ 村の現状とむらづくりにおける重要度(①19歳以上)
- ⑥ 10年後の村の将来像(全区分)
- ⑦ 参加してみたい地域活動・ボランティア(全区分)
- ⑧ 地域幸福度指数調査(①19歳以上、②転入者)
- ⑨ 村の活性化に向けた取組み(①19歳以上、②転入者、③高校生世代)
- ⑩ 住宅の所有関係(②転入者)
- ⑪ 転入理由(②転入者)

- ⑫ 区・組への加入状況(②転入者)
- ⑬ 転入に向けて必要となった情報源及び情報入手経路(②転入者)
- ⑭ 村の住みやすさ(③高校生世代)
- ⑮ 進学や就学等で村を離れた際の帰郷意識(③高校生世代)
- ⑯ 村への意見・要望等(全区分)

(4) 調査設計及び回答結果

調査区分		①19 歳以上	②転入者	③高校生世代	④小中学生
対象者数		9,060 人	3,794 人	497 人	1,020 人
抽出方法		無作為抽出	無作為抽出	全数(悉皆)調査	全数(悉皆)調査
配布数		1,300 部	800 部	497 部	1,020 部
調査方法		郵送及び オンライン	郵送及び オンライン	郵送及び オンライン	オンライン
調査時期		令和 6 年 2～3 月	令和 6 年 2～3 月	令和 6 年 2～3 月	令和 6 年 4 月
調査地域		村内全域	村内全域	村内全域	村内の 小・中学校
回収 数	郵送	474	171	91	——
	オンライン	73	69	57	598
	合計	547	240	148	598
回収率		42.1%	30.0%	29.8%	58.6%

1-2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱い

- ① 比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、比率の合計が 100%にならないことがあります。
- ② 基数となるべき実数(回答者数)は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを 100%として算出しています。
- ③ 複数回答の設問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い設問であることから、各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。
- ④ 文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化して表現している場合があります。
- ⑤ 調査対象者の属性については、調査票抽出時の年齢(2023 年 12 月)で集計しています。

1-3 本調査の統計的な評価

(1) 図表の数値の統計的な見方

本調査の区分のうち、「①19 歳以上」、「②転入者」の対象者は 12,854 人となります。

しかし、全員の意識や実態を調べる全数(悉皆)調査には莫大な費用や労力、時間がかかるため、実際に調査を行ったのは無作為に抽出した 2,100 人となります。無作為に標本を抽出する理由は、得られた調査結果(標本)が、調査対象者の性別、年齢別、居住区別などの属性でみた場合、どこかの属性に回答が偏らず、その縮図となるようにするためとなります。

なお、有効回答数は 787 人でした。

(2) アンケートの有意性

本調査の区分のうち、無作為抽出を行った「①19 歳以上」、「②転入者」の有効回答数は 787 人で、地域的なばらつきや属性構成に偏りはあるものの、その分を見越しても 95%の有意性(調査サンプルが村民全体の意向を反映していると想定できる割合)を確保する水準(>n=374)^{※1}に達しています。

※1 アンケートの有意性 … 母集団を推計するための必要な調査数は、次の計算式で算出されます。

n : 必要な調査数

N : 母集団の規模=〇〇人(①19 歳以上+②転入者の総数)

z : 信頼係数=1.96(信頼度 95%を担保する値)

p : 回答比率=0.5(標準値)

e : 許容誤差=5%

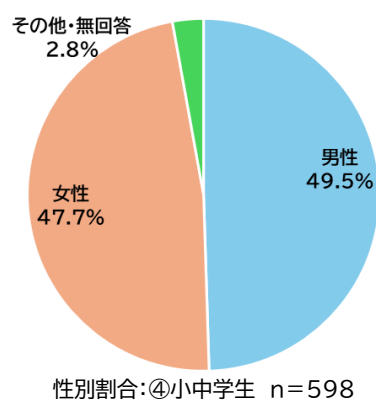
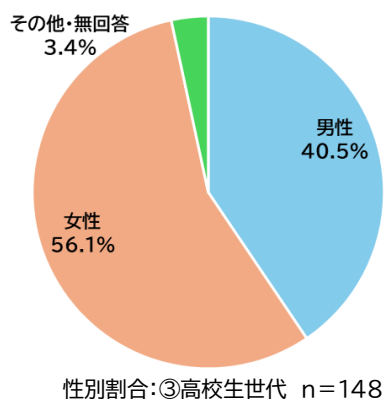
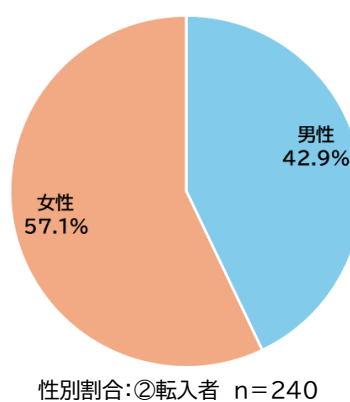
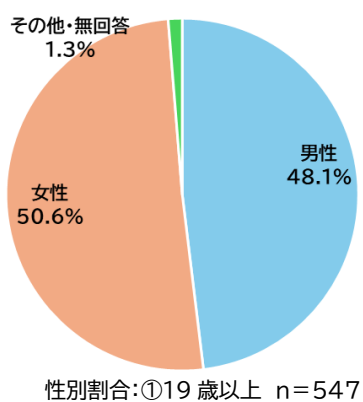
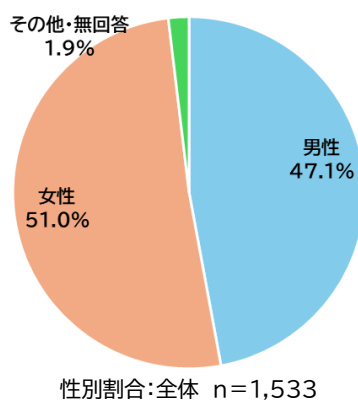
$$n = \frac{\frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2}}{1 + \left\{ \frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2 N} \right\}}$$

1-4 回答者の属性

(1) 性別

回答者は、南箕輪村民全体(母集団)と比べて男性が少なく、調査結果の傾向として女性の意向が若干多めに反映されていることが想定されます。

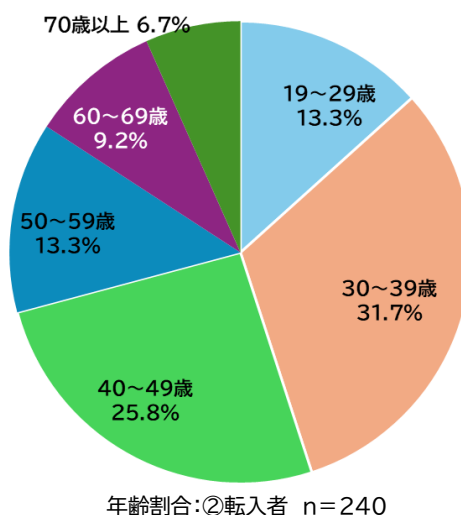
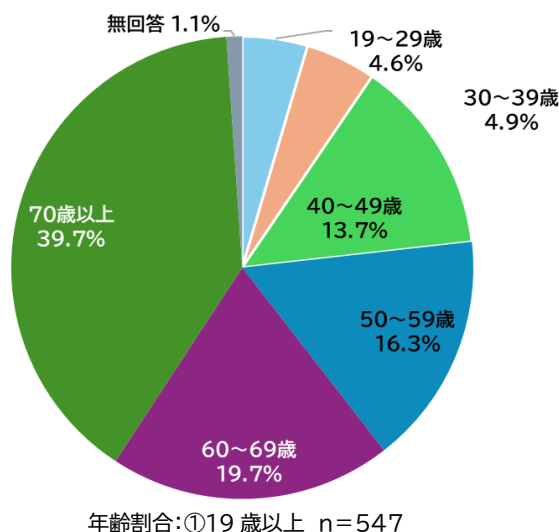
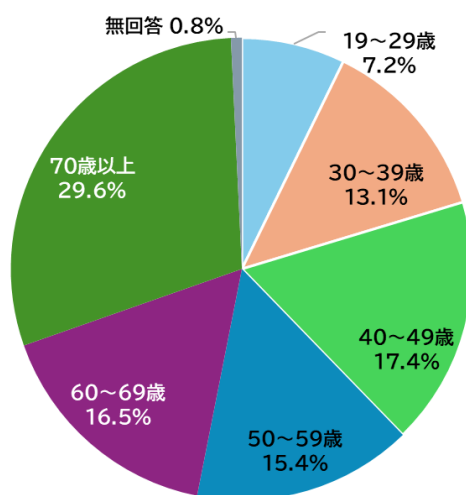
	①19 歳以上	②転入者	③高校生世代	④小中学生	全体	母集団(R5.12.1 現在)
回答者数(n)	547	240	148	598	1,533	16,088
男性	48.1%	42.9%	40.5%	49.5%	47.1%	49.7%
女性	50.6%	57.1%	56.1%	47.4%	51.0%	50.3%
その他・無回答	1.3%	0.0%	3.4%	2.8%	1.9%	——



(2) 年齢(①19 歳以上、②転入者)

回答者の年齢は、南箕輪村民全体(母集団)と比べて「19～29 歳」が最も低く、「40～49 歳」までポイントはマイナスとなっています。また「50～59 歳」から年代が上がるにつれてポイントが高くなる傾向が見られます。調査結果の傾向として、「①19 歳以上」区分の「70 歳以上」の方の意向が多めに反映されていると想定されます。

	①19 歳以上	②転入者	合計	母集団(R2 国勢調査)	母集団比率との比較 (合計－母集団)
回答者数(n)	547	240	787	12,015	15,797
19～29 歳	4.6%	13.3%	7.2%	15.1%	-7.9
30～39 歳	4.9%	31.7%	13.1%	15.1%	-2.0
40～49 歳	13.7%	25.8%	17.4%	19.0%	-1.6
50～59 歳	16.3%	13.3%	15.4%	15.3%	+0.1
60～69 歳	19.7%	9.2%	16.5%	13.4%	+3.1
70 歳以上	39.7%	6.7%	29.6%	22.1%	+7.5
無回答	1.1%	0.0%	0.8%	—	—



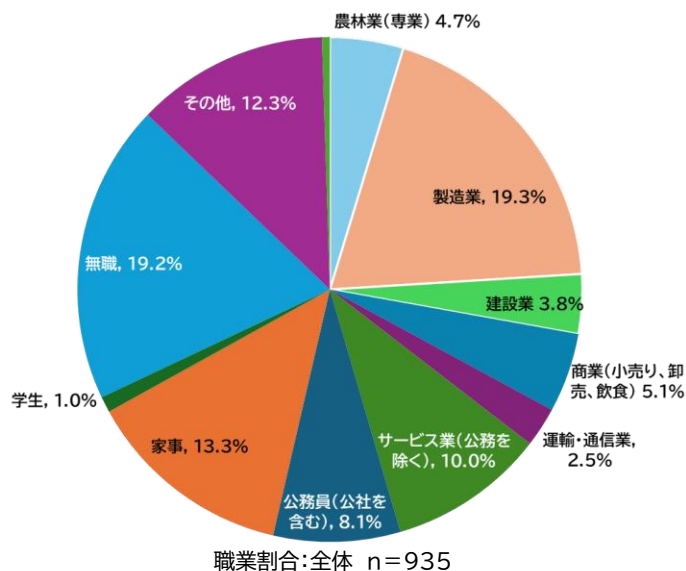
(3) 職業(①19 歳以上、②転入者)

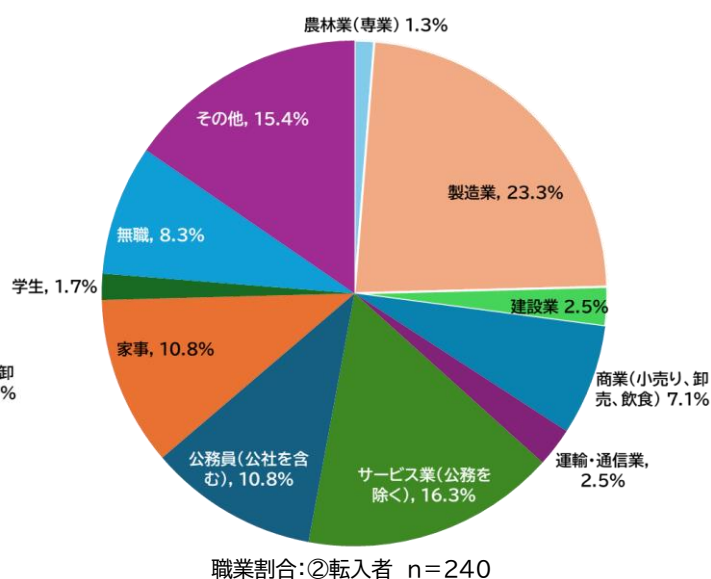
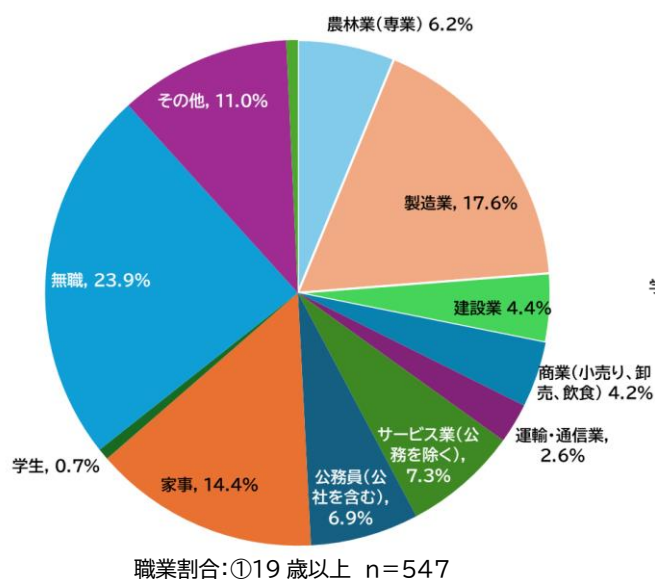
回答者の職業については、「製造業」が 19.3%と最も高く、次いで「無職」(19.2%)、「家事」(13.3%)、「その他」(12.3%)、「サービス業(公務を除く)」(10.0%)、「公務員(公社を含む)」(8.1%)、「商業(小売り、卸売、飲食)」(5.1%)、「農林業(専業)」(4.7%)、「建設業」(3.8%)、「運輸・通信業」(2.5%)、「学生」(1.0%)の順となっています。

また、「②転入者」と「①19 歳以上」とを比較したところ(転入者比較(②－①))、「サービス業(公務を除く)」が 9.0 ポイントと最も高く、次いで「製造業」(5.7 ポイント)、「その他」(4.4 ポイント)となっています。

なお、「その他」には、郵送アンケートの回答内容から「医療従事者」「介護士」「教育関係」などが含まれると推測されます。

	①19 歳以上	②転入者	合計	転入者比較(②－①) (ポイント)
回答者数(n)	547	240	935	——
農林業(専業)	6.2%	1.3%	4.7%	-4.9
製造業	17.6%	23.3%	19.3%	+5.7
建設業	4.4%	2.5%	3.8%	-1.9
商業(小売り、卸売、飲食)	4.2%	7.1%	5.1%	+2.9
運輸・通信業	2.6%	2.5%	2.5%	-0.1
サービス業(公務を除く)	7.3%	16.3%	10.0%	+9.0
公務員(公社を含む)	6.9%	10.8%	8.1%	+3.9
家事	14.4%	10.8%	13.3%	-3.6
学生	0.7%	1.7%	1.0%	+1.0
無職	23.9%	8.3%	19.2%	-15.6
その他	11.0%	15.4%	12.3%	+4.4
無回答	0.7%	0.0%	0.5%	-0.7





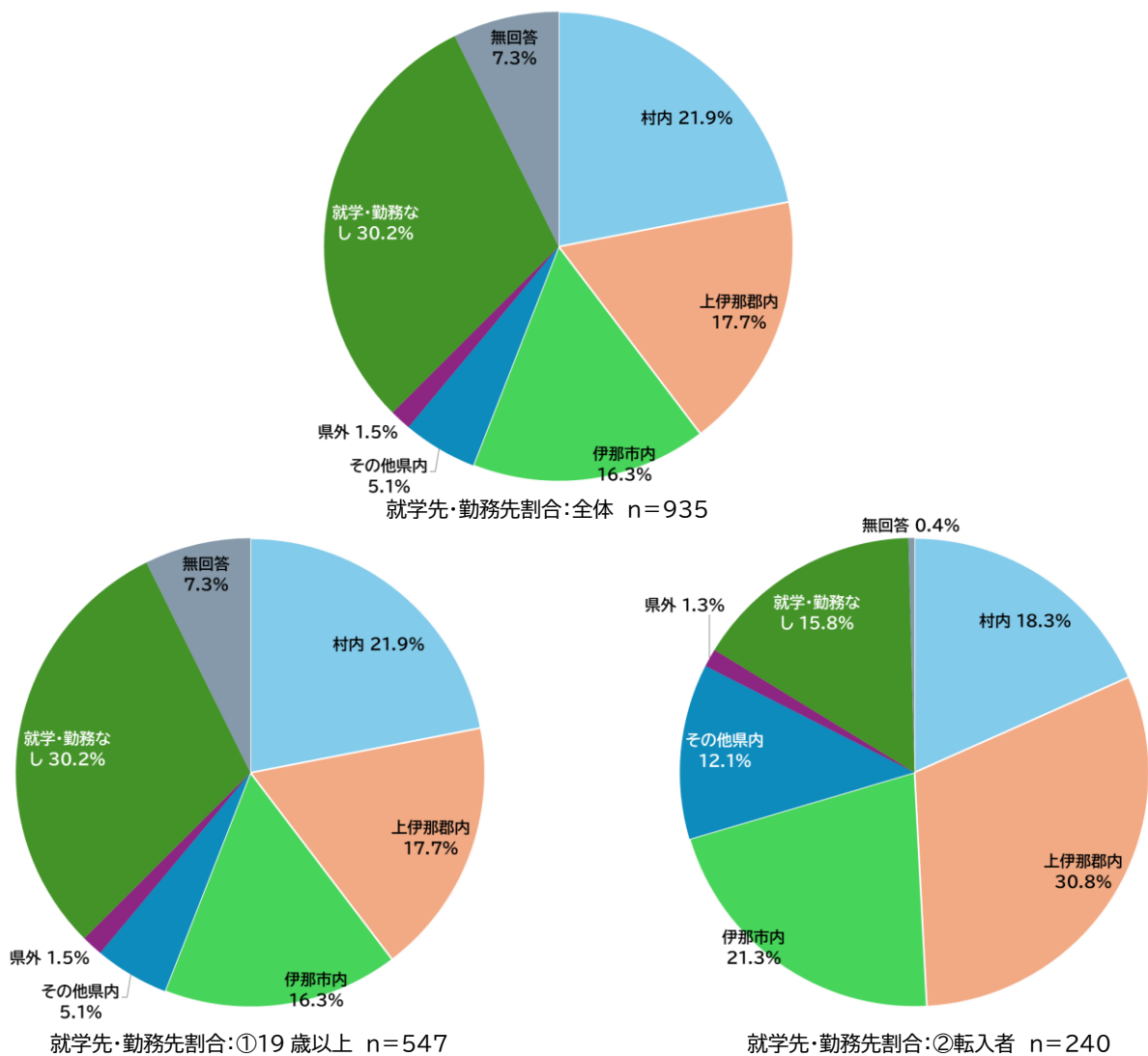
(4) 就学先・勤務先(①19 歳以上、②転入者)

回答者の就学先・勤務先については、「上伊那郡内」が 21.7%と最も高く、次いで「村内」(20.8%)、「伊那市内」(17.8%)、「その他県内」(7.2%)、「県外」(1.4%)となっています。

(「就学・勤務なし」は 25.8%、「無回答」は 5.2%となっています。)

また、「②転入者」と「①19 歳以上」とを比較したところ(転入者比較(②-①))、「上伊那郡」が 13.1 ポイントと最も高く、次いで「その他県内」(7.0 ポイント)、「伊那市内」(5.0 ポイント)となっています。

	①19 歳以上	②転入者	合計	転入者比較(②-①) (ポイント)
回答者数(n)	547	240	935	——
村内	21.9%	18.3%	20.8%	-3.6
上伊那郡内	17.7%	30.8%	21.7%	+13.1
伊那市内	16.3%	21.3%	17.8%	+5.0
その他県内	5.1%	12.1%	7.2%	+7.0
県外	1.5%	1.3%	1.4%	-0.2
就学・勤務なし	30.2%	15.8%	25.8%	-14.4
無回答	7.3%	0.4%	5.2%	-6.9

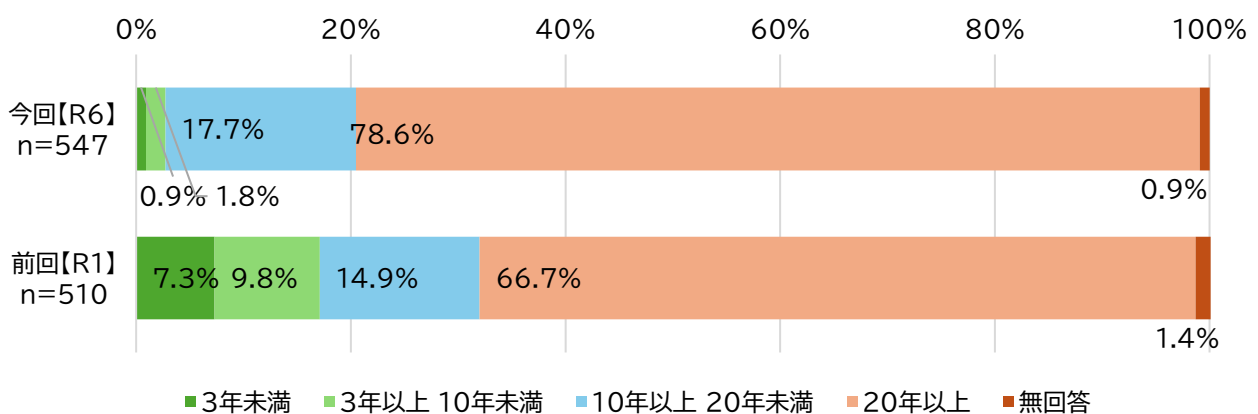


(5) 居住年数

(5)-1 ①19 歳以上

回答者の居住年数については、「20 年以上」が 78.6%と最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」(17.7%)、「3 年以上 10 年未満」(1.8%)、「3 年未満」(0.9%)の順となっています。

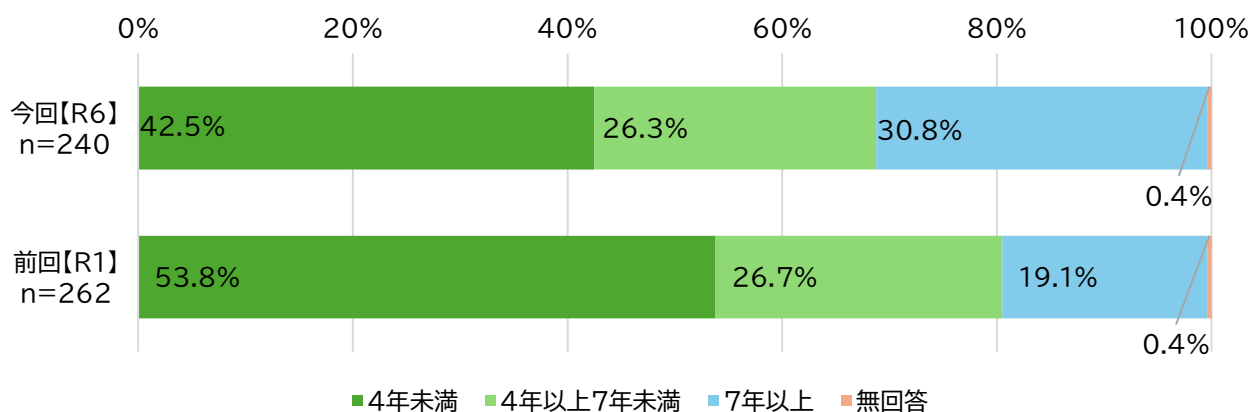
前回と比較して、20 年未満の居住が 11.6 ポイント減少しています。



(5)－2 ②転入者

回答者の居住年数については、「4 年未満」が 42.5%と最も高く、次いで「7 年以上」(30.8%)、「4 年以上 7 年未満」(26.3%)の順となっています。

前回と比較して、7 年以上の居住が 11.7 ポイント増加しており、4 年未満の居住が 11.3 ポイント減少しています。

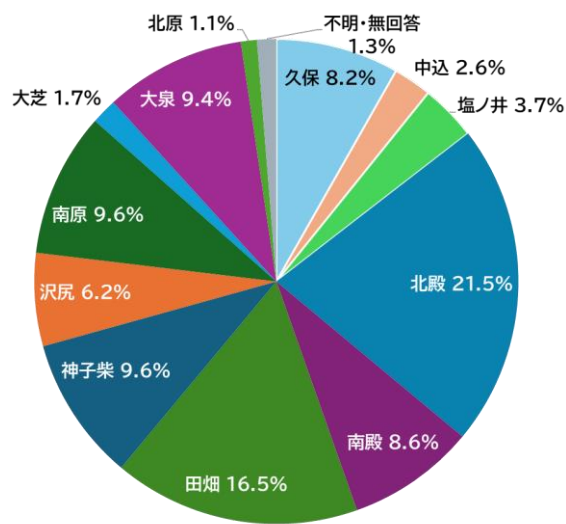


(6) 居住地区(①19 歳以上、②転入者、③高校生世代)

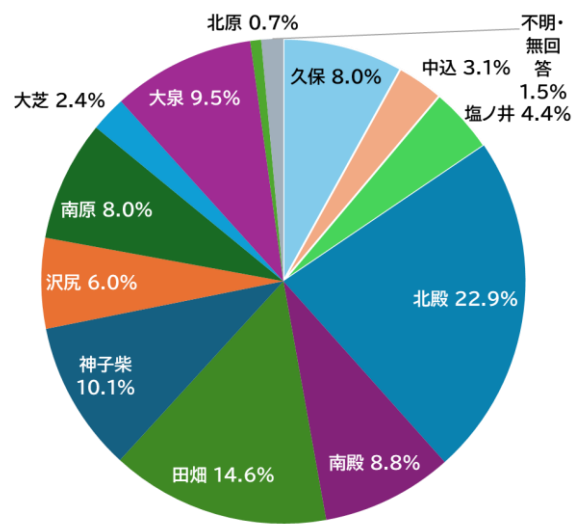
回答者の居住地区は、「北殿」地区が 21.5%と最も高く、次いで「田畑」地区(16.5%)、「神子柴」地区・「南原地区」(共に9.6%)などの順となっています。

また、「②転入者」と「①19 歳以上」とを比較したところ(転入者比較(②－①))、「南原」が 4.9 ポイントと最も高く、次いで「田畑」(2.5 ポイント)、「大泉」(2.2 ポイント)などの順となっています。

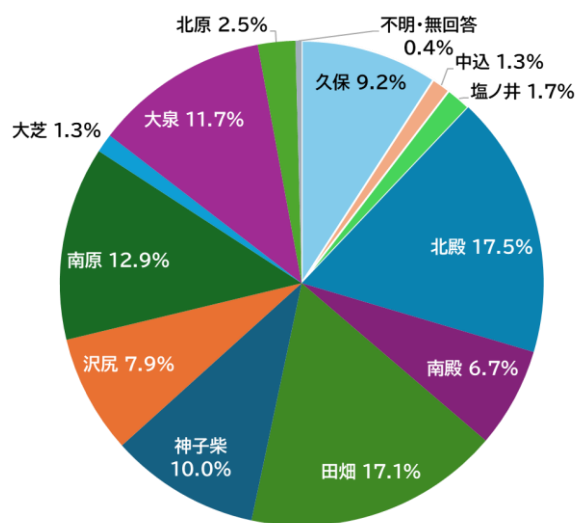
	①19 歳以上	②転入者	③高校生世代	合計	転入者比較(②－①) (ポイント)
回答者数(n)	547	240	148	935	——
久保	8.0%	9.2%	7.4%	8.2%	+1.2
中込	3.1%	1.3%	2.7%	2.6%	-1.8
塩ノ井	4.4%	1.7%	4.7%	3.7%	-2.7
北殿	22.9%	17.5%	23.0%	21.5%	-5.4
南殿	8.8%	6.7%	10.8%	8.6%	-2.1
田畑	14.6%	17.1%	22.3%	16.5%	+2.5
神子柴	10.1%	10.0%	7.4%	9.6%	-0.1
沢尻	6.0%	7.9%	4.1%	6.2%	+1.9
南原	8.0%	12.9%	10.1%	9.6%	+4.9
大芝	2.4%	1.3%	0.0%	1.7%	-1.1
大泉	9.5%	11.7%	5.4%	9.4%	+2.2
北原	0.7%	2.5%	0.0%	1.1%	+1.8
不明・無回答	1.5%	0.4%	2.0%	1.3%	-1.1



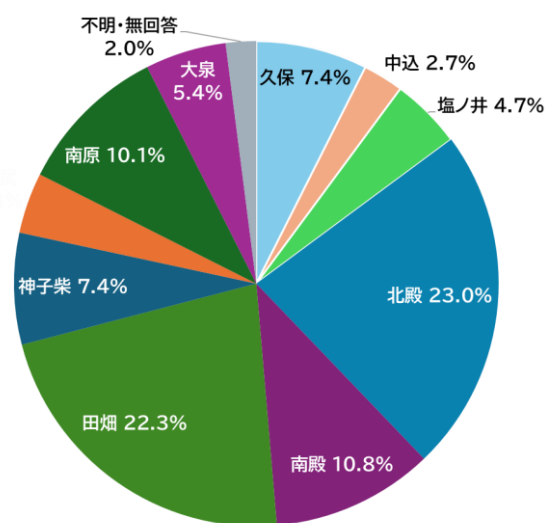
居住地区割合:全体 n=935



居住地区割合:①19歳以上 n=547



居住地区割合:②転入者 n=240

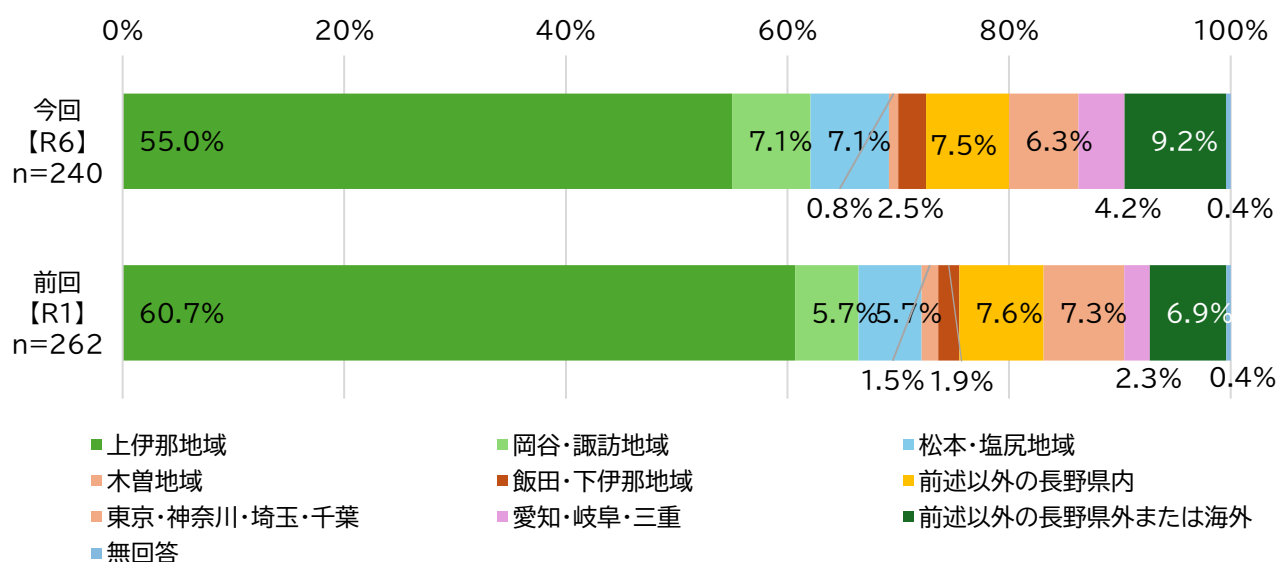


居住地区割合:③高校生世代 n=148

(7) 転入前の居住地(②転入者)

「②転入者」の回答者のうち、転入前の居住地は、「上伊那地域」が 55.0%と最も多くなっています。

また、前回と比べて「上伊那地域」が 5.7 ポイント減少し、「岡谷・諏訪地域」・「松本・塩尻地域」が同 1.4 ポイント増加しています。



(8) 世帯構成(②転入者)

「②転入者」の回答者のうち、世帯構成は、「親と子の世帯(2 世代世帯)」が 55.8%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」(16.7%)、「夫婦のみの世帯」(13.8%)となっています。

前回と比較して、「親と子の世帯(2 世代世帯)」が 8.7 ポイント減少し、「ひとり暮らし」が 1.4 ポイント増加、「夫婦のみの世帯」が 0.7 ポイント減少しています。

